

長崎史談会・平成26年度秋季研修旅行
京都方面史跡めぐり(9月2日～4日)

本会名誉会長 宮川雅一

9月2日午前8時ANA162便で39人長崎空港を出発。定刻午前9時10分伊丹空港到着、早速バスに乗り込み、中国自動車道・舞鶴若狭自動車道を走り、篠山市へ向かう。

一、天守閣なき平城(ひらじょう)の篠山城大手真近かに大書院建つ

篠山城は畿内に接する要衝のため一貫して譜代大名が配置され、最後の城主は東京青山の地名で知られる青山氏。

二、篠山の城のあたりを見渡せば高層ビルのひとつだになし

城の周辺に目障りな大きな建物が全くなく、すばらしい景観が保たれていた。

高速を少し走って次は福知山。城公園は定休であったが城に登ることはできた。

三、福知山城の石垣ここここに宝篋印塔転用の石

天守閣の城壁などに沢山宝篋印塔の大きな石らしきものが見える。城壁の側にはそこに使われていた小型の仏塔などが並んでいた。

四、福知山城主は明智松平(島原藩)蘭癖大名出ずは朽木(くつき)氏

福智(知)山城は、明智光秀が塩見(横山)氏を攻略して支配。明智氏滅亡後は様々な大名が入部、島原藩に入った松平家も。最後は朽木氏でその八代昌綱が阿蘭陀商館長等と交流。

五、福知山未曾有の水害傷の痕公園にあり山裾にも見ゆ

今年大水害に見舞われたばかりで、公園は2日も水につかり売店がすべて流されたという。遠くの山には土石流の痕が見えた。

六、舟(ふね)宿す舟屋(ふなや)の並ぶ伊根の海トビとカモメが歓迎に舞う

綾部宮津道路に入り、宮津市に出て天の橋立を右に狭い海岸道路をかなり走って伊根浦に到着、遊覧船から海を向いて舟の出入り口が開いた家の並ぶ珍しい風景を見る。

七、八十路(やそじ)われ天の橋立歩むとき金髪むすめ自転車を駆る

天の橋立を股から覗く定番の高所に行くロープウェイ駅の辺りで車を降り3・5キロメートルの橋立を約一時間かけて歩ききる。その後文殊菩薩を祀る智恩寺に参拝。

八、宮津には細川ガラシャの縁(えにし)にて明治の初め天主堂建つ

皆疲れていたが、原田会長の勧めで下車。おかげで立派な宮津カトリック教会の内部を拝観、出来たばかり細川ガラシャの銅像にも出会えた。宮津は夫忠興が支配した時代もあってガラシャ夫人に関わりのある場所。

九、ホテルより天の橋立眺むれば雲間の夕陽山陰

(やまかげ)に落つ

宮津ロイヤルホテルは、眺めが絶好で、大浴場など設備も整ったいいホテルであった。

一〇、橋立の見ゆるホテルの朝風呂のあとに飲む茶の胃にしみわたる

朝風呂に行くと冷やした番茶が自由に飲めるようにしてあって、とてもおいしかった。

定刻午前8時バスに乗り込み、鯖街道を急ぐ。若狭国と近江国の境にあるのが熊川宿。

一一、バスの旅熊川宿で一休み近江の地図に坂本探す

熊川宿跡道の駅で停車、そこにあった西日本高速道路の広報誌に軍艦島等長崎の記事が出ていて皆で喜び、同誌の地図で坂本を探す。

一二、秋帆の出里高島走り行く左窓(さそう)に琵琶湖竹生島見ゆ

高島秋帆の先祖がいたとされる滋賀県高島市に入ったと思うと琵琶湖や竹生島が見えた。50年前の滋賀県庁勤務時代が懐かしい。

一三、滋賀県は琵琶湖ばかりと思いきや黄金(こがね)に稔る湖北(こほく)の広野

琵琶湖がとてつもなく大きいので、つい陸地はあまりない先入観が消えてなかったが、眼前の湖北平野は結構広く、丁度稲が刈入れ時を迎えていて印象的であった。

一四、対岸に小さく見ゆる近江富士(三上山)松茸狩した往時を想う

近江富士といわれる三上山が湖の向うに小さく見える。慰安流行で行って松茸を採ったことが昨日のように思い出される。

一五、日吉大社山王神社の総本社東西二つの本宮拝む

坂本の日吉大社に着き、昼の弁当をバスの中で食べてから、旧大宮の西本宮と旧二の宮の東本宮を巡拝する。ともに国宝。神猿(まさる)のおみくじを買う。僧兵たちが強訴に使った神輿は見ることが出来なかった。

次号に続く



宮津カトリック教会